

令和6年度 鳥取県 英語教育改善プラン

【鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿】

目標

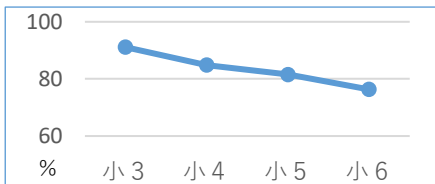
言語活動を通して英語 4 技能をバランスよく育成する
(小学校) **英語に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成**

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOLISTの活用の割合が向上。
・設定(R4:63.6%⇒R5:77.3%)
・公表(R4:37.2%⇒R5:49.6%)
・把握(R4:52.1%⇒R5:63.9%)
- ②パフォーマンステストの実施回数が増加。
・5年(R4:6.2回⇒R5:6.6回)
・6年(R4:6.8回⇒R5:7.6回)
- ③小中連携を行った学校の割合が向上。
(R4:67.9%⇒R5:80.4%)

①「英語が好き」と回答する児童の割合が学年が上がるにつれ下がり、未だ改善が必要。



未だ改善が必要な点

- ②外国語指導経験の少ない学級担任等への支援が必要。
(①の質問に対する肯定的回答が、学校間学年間で最大約80%の差)
- ③言語活動の充実のためのデジタル教科書の効果的活用の促進が必要。
- ④カリキュラムや学習到達目標に基づく小中連携の割合が低く、引き続き改善の余地がある。
(R4:23.2%⇒R5:17.9%)

2. 要因分析

- ①昨年度作成した県版CAN-DOLISTの活用を研修会等で促すと同時に、小学校英語専科教員等にCAN-DOLISTの作成を課したため、活用が促進されたと考えられる。
- ②大学教授を招聘したパフォーマンステストについての研修を実施するとともに、教育研究団体と連携し、評価の在り方について周知を図ってきたことが功奏したと考えられる。
- ③教育課程研究集会における動画で、実践を交えた小中連携について周知を図ったことで、連携が促進されたと考えられる。

①児童の興味・関心を引き出し、意欲を高める言語活動の質が十分でないことが要因と考えられる。また、児童が実際に英語を用いてコミュニケーションを図る場が不足していると考えられる。

②③学級担任等への専門的な研修機会が不足していると考えられる。また、各学校の実態により、研修に参加したくてもできない現状がある。

④小中連携における情報交換は促進されたが、学びの連続性を意識した指導の必要性や具体についての理解が不十分であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①児童の英語学習への意欲及びコミュニケーション能力の向上の推進

- ・小学生のための1 DAYイングリッシュ（1日×2回×3会場）
→ALT等のネイティブスピーカーと英語を使ってコミュニケーションを図る場を創出
- ・外部試験（英検ESG）を活用した児童生徒の英語力向上事業
→年間を通じた学習指導と評価に使えるワークシートの活用と、児童の英語力を客観的指標に基づいた把握による指導の充実
- ・オンラインスピーキング補助事業
→オンライン英会話及びAI型英会話を導入する自治体を財政補助

②①②③④教師の指導力向上の推進

- 言語活動を通じた指導の充実を図るため、各種研修会等を開催
- ・小学校英語専科教員等連絡協議会の開催（2回）
- ・小学校英語専科教員訪問
→外国語担当指導主事等が県内の新規英語専科配置校を訪問し、授業参観及び事後協議を行い、授業改善と専科の活用を促進
- ・各種研修会（動画配信含）
小学校教員のための「とっとり英語学び塾」（オンライン）
→外国語指導経験の少ない教員向けの基礎・基本的な内容の研修
小学校英語専科等指導力向上研修 ※大学教授招聘
学習者用デジタル教科書活用研修 ※大学教授招聘
ALT参画充実に係る好事例動画配信
(R5作成→R6周知・活用)
- 教育課程研究集会
- ③④校種間連携の推進
・鳥取県英語教育推進フォーラム
→小・中・高等学校全ての校種の英語担当教員を対象とし、校種間の学びの連続性に関する実践発表や外部講師による講演を実施

令和6年度 鳥取県 英語教育改善プラン

【鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿】言語活動を通して英語 4 技能をバランスよく育成する

(中学校) **自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成**

目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 51.0% ⇒ R6: 52.0%)
- 授業における言語活動時間が50%以上の学校の割合 (R5: 64.9% ⇒ R6: 80.0%)
- 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を活用している学校の割合 (R5: 公表55.4%、把握57.1% ⇒ R6: いずれも70%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- CEFR A1以上の英語力を有する生徒の割合が向上。
(R4: 34.6% ⇒ R5: 51.0%)
資格取得割合(R4: 18.3% ⇒ R5: 23.7%)
同等の英語力を有すると思われる生徒の割合
(R4: 16.3% ⇒ R5: 27.2%)
- CEFR B2以上の英語力を有する英語担当教員の割合が向上。
(R4: 33.7% ⇒ R5: 40.0%)
- 小中連携を行った学校の割合が向上。
(R4: 67.9% ⇒ R5: 80.4%)

未だ改善が必要な点

- R5全国学力・学習状況調査の教科調査において、知識・技能、思考・判断・表現のいずれにも課題が見られた。
- 言語活動の実施割合が減少。
(R4: 67.9% ⇒ R5: 64.9%)
- 教師の英語使用割合が減少。
(R4: 69.6% ⇒ R5: 67.9%)
- CAN-DOリストの活用を促進が必要。
・公表 (R4: 53.6% ⇒ R5: 55.4%)
・把握 (R4: 58.9% ⇒ R5: 57.1%)
- 「英語が好き」と回答する児童生徒の割合が学校種間(小6から中1、中3から高1)で大幅に減少。
・小6: 76.3%、中1: 68.9% [-7.4%]
・中3: 68.1%、高3: 55.1% [-13.0%]

2. 要因分析

- 全公立中学校3年生を対象に外部試験を実施したことにより、客観的指標を基にした生徒の英語力の把握が可能になった。また、生徒の英語学習への意欲が向上し、資格取得につながったことが考えられる。
- 新規教員採用試験における優遇措置により、一定の英語力を有する教員の割合が増加したことが考えられる。
- コロナ禍で中止されていた学校間交流が再開されたことに加えて、小中連携の重要性や具体的取組について、各種研修会や学校訪問等で、周知を図ってきたことが奏功したと考えられる。

- 言語活動の実施について、質・量ともに学校間で差が見られる。「言語活動を通じた指導」についての理解が不十分であることが考えられる。

【授業における言語活動実施に係る課題】

- ・目的、場面、状況等の設定が不明確である。
- ・練習と言語活動の弁別が図られていない。
- ・中間指導やフィードバックが不十分である。
- ・教師による日本語での説明や解説が多い。

- CAN-DOリストについて、生徒の実態に心じて見直したり、活用したりしていない学校が一定数ある。指導と評価の一体化についての理解が不十分であることが考えられる。
- 小中連携に係る取組に地域間の差が大きい。学びの連続性を意識した指導の必要性や具体についての理解が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

① ① 生徒の英語力向上の推進

外部試験を実施し、客観的指標を基に、生徒の英語力を定点及び経年で把握し、指導改善を図る。また、授業内外での英語使用機会の場を充実させる。

・外部試験を活用した生徒の英語力向上事業

→中学校3年生に4技能型、1・2年生に2技能型の英検IBAを実施

・Tottori English Challenge Program2024

→中学生・高校生を対象とした3日間にわたるスピーキング力育成講座

・オンラインスピーキング補助事業

→オンライン英会話及びAI型英会話を導入する自治体を財政補助

② ① ② ③ ④ 教師の指導力向上の推進

言語活動を通じた指導の充実を図るため、県内全ての中学校訪問を行う。また、各種研修会を開催する。

・中・義務教育学校外国語(英語)訪問

→外国語担当指導主事等が県内全公立中・義務教育学校を訪問し、授業参観及び事後協議を行い指導改善を個別に支援

・出かける学びの改革推進室(英語)

→学校、自治体等が希望する内容で、授業参観や研修会等を実施

・各種研修会(動画配信含)

定期考査研修会(中学校・英語) ※外部講師招聘
ALT参画充実に係る好事例動画配信 (R5作成→R6周知・活用)
教育課程研究集会
中学校授業改善に係るオンライン研修会

③ ⑤ 校種間連携の推進

・鳥取県英語教育推進フォーラム

→小・中・高等学校全ての校種の英語担当教員を対象とし、校種間の学びの連続性に関する実践発表や外部講師による講演を実施

・小中連携のための研修会(動画配信)

→小学校での学びを踏まえた中学校入門期の指導について、周知

令和6年度 鳥取県 英語教育改善プラン

【鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿】言語活動を通して英語 4 技能をバランスよく育成する
(高等学校) **英語で発信し議論する力の育成**

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 51.0%、B1以上 17.6% ⇒ R6 : A2以上 52.0%、B1以上 20.0%)
- 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況の把握 (R5 : 45.5% ⇒ R6 : 60.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力
・CEFR A2 (英検準2級) 以上
(R4:50.8% → R5:**51.0%**)
- ②総合・専門学科における指導
・言語活動の実施割合 (授業時間の50%以上)
(R4:20.0% → R5:**40.0%**)
・英語担当教師の英語使用状況 (発話の50%以上)
(R4:11.4% → R5:**26.3%**)
- ③英語担当教師の英語力
・CEFR B2 (英検準1級) 以上
(R4:90.9% → R5:**99.1%**)
- ④CAN-DOリスト形式による学習到達目標の達成状況の把握
(R4:34.8% → R5:**45.5%**)
- ①英語担当教師の英語の使用状況
(R4:32.5% → R5:**32.0%**)
- ②「話すこと (やり取り)」のパフォーマンステストの実施状況
(一校当たりの年間実施回数平均 普通科: **0.48**回 専門・総合学科:
0.75回)
- ③ICT機器の活用 (教師がデジタル教材を活用した授業)
(R4:100% → R5:**59.1%**)
- ④中高連携の促進 (中学校と連携した高校数)
(R4: 8 校 → R5:**5**校)

2. 要因分析

- 【改善が進んだ要因】
- ①外部検定試験の活用及び3観点を意識した授業改善の成果
 - ②各種研修会をととして、学習指導要領の趣旨理解が図られたこと、英語教育実施状況調査から見える学科ごとの課題について共通理解が図られたことの成果
 - ③外部検定試験受験など、自主的な研修及び採用時における英語力に応じた優遇措置の成果
 - ④CAN-DOリストをもとにした評価計画の見直しが図られた成果
- 【改善が必要な要因】
- ①日本語で説明等を行うことが多い
→英語を授業中の主たる言語とし、考え等をやり取りするなどの言語活動の更なる実施
 - ②「話すこと (やり取り)」のパフォーマンステストの実施が不十分
→計画に沿った「話すこと (やり取り)」の指導と評価の実施
 - ③デジタル教材の活用が不十分
→教科書等の内容について生徒の主体的な関わりを引き出すための好事例の普及
 - ④中高連携を行う学校数の減少
→研修等、中高連携の機会の創出

3. 目標を達成するための施策・事業

- ◎ALT等を活用した英語によるコミュニケーション能力向上事業
- ②④⑥英語教員等の指導力向上研修
→指導と評価に係る研修。学習指導要領の趣旨理解及び表現技能の指導と評価並びにICTの活用について理解を深める
- ①②③①②外国語指導助手 (ALT) の指導力等向上研修会
→ALT及び日本人教員対象に、ワークショップ型スキル向上トレーニング研修を行い、指導力の向上を図る
- ①②ネイティブスピーカーと過ごす中高生合同の英語での発信力養成キャンプ (Tottori English Challenge Program 2024)
→中・高校学校の生徒が3日間にわたり目的別のレッスンを受講
- ◎世界に羽ばたく人材育成事業
- ①⑥グローバルリーダーズキャンパス
→米国スタンフォード大学と連携したオンライン授業
- ①高校生海外留学支援事業 ※4名、上限40万円
- ①高等学校等海外派遣支援事業 ※5校50名、上限6万円
- ①江原道青少年国際フォーラム派遣事業
→国際フォーラムに2校10名の高校生を派遣し、英語によるプレゼンテーション等を行う
- ①英語弁論大会優秀者派遣事業 ※ニュージーランドに4名
- ①クライストチャーチ架け橋プロジェクト ※ニュージーランドから4名
→日本語を学ぶ高校生を県内高校に受入れる
- ◎その他
- ②④①②③教育課程研究集会
- 小中高の校種間連携充実のための連携強化事業取組
- ①②④グローバルティーチャーに学ぶ研修会
→中・高等学校教員が合同で学ぶ研修を実施
- ④英語教育推進フォーラム
→小・中・高等学校の英語担当教員が一堂に介し、校種間連携に関するテーマに基づいた実践発表や講演を実施

鳥取県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		52	51	52		53		54		55	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		40	17.6	20		24		28		32	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	53.1	60		65		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		65	51.5	65		70		80		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	60	45.5	60		70		80		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		99	99.1	100		100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		50	32	40		50		60		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	51	52		53		54		55	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	64.3	80		80		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	76.2	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	70	55.4	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	70	57.1	70		80		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	40	43		45		48		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		75	67.9	75		75		80		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	90	77.3	90		100		100		100	
		公表（％）	50	49.6	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	80	63.9	70		80		90		100	